

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校共同活動の取組事例

## 「学校支援地域本部事業」(岩手県大船渡市)

### 取組の概要や経緯

被災者を含めた多くの地域住民が、学校や関係機関と連携して地域の子どもたちの健全育成と安心な安全な通学環境の確保に主体的に関わることで、達成感や自己有用感を得られることを目的に実施した。



### 内容

#### ◎スクールガード配置事業

- ・登下校時の安全を確保するため市内小中学校13校にスクールガード42人を配置した。
- ・学区内で声掛け事案が発生した場合のさらなる事案の発生、拡大の防止のため、学校とスクールガードの連携体制を強化し、情報の共有を図っている。

#### ◎学校支援事業

- ・地域コーディネーターを配置し、ボランティアによる学校活動支援を目指したが、地域コーディネーターが配置できず、市教委と学校とでその役割を担い、地域ボランティアによる図書環境整備を実施した。
- ・地域ボランティアを対象とした研修会の開催。



### ポイント

- ・各校の状況に応じ、引率型8校(登下校に同行)、巡回型3校(通学路の危険箇所等を巡回監視)、添乗型2校(スクールバスに同乗して車内の安全を確保する)により実施した。

### 成果

- ・スクールガード配置事業では、復興工事等で大型車両等の往来が増加する中、登下校時の安全を確保することができた。(事故発生件数0件)
- また、引率型、巡回型の配置により、登下校時の児童生徒に対する声掛け事案の発生を防ぐことができ(事案発生件数0件)、さらには、スクールバスに添乗することで、特に低学年の車内での安全を確保することができた。(事故発生件数0件)
- ・学校支援事業では、研修会の開催により、図書支援活動内容への理解を深めながら、ボランティア同士の新たな交流が生まれた。

### 今後の方向性

#### ◎スクールガード配置事業

通行車両の増加、道路整備の進捗に伴う通学路の変更等で、今後とも登下校時の安全確保対策が必要であるが、スクールガードのなり手が少なくなっている。地域住民に当事業のさらなる周知を図り、必要な人材を確保したい。

#### ◎学校支援事業

地域コーディネーターのなり手が不足している。地域住民、学校関係者に積極的に情報発信し、必要な人員を確保したい。